

令和8年

4月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0897) 57-9122

【天気予報及び概況】

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は高い見込みで、降水量はほぼ平年並みの見込みです。

| | 平均気温 (°C) | 最高気温 (°C) | 最低気温 (°C) | 降水量 (mm) |
|------------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 2025年 | 14.6 | 20.1 | 9.6 | 47.5 |
| 2024年 | 16.2 | 20.7 | 12.4 | 144.5 |
| 2023年 | 14.6 | 19.7 | 9.7 | 162.0 |
| 1991~2020年 | 14.4 | 19.3 | 9.9 | 89.2 |

※気温については、1ヶ月の平均値(気象庁)

【作物】

1 麦

(1) 赤かび病の防除

赤かび病は開花を始めた時期から開花期(1穂につき数花開花しているものが、全穂数の40~50%に達した日)が主な感染時期です。この時期に温暖(気温15°C以上)で連続降雨があると発生が多くなります。このため、防除適期であるこの時期には必ず防除を実施してください。

また、1回目の防除後も温暖多雨で多発が予想される場合には、7~10日後に2回目の防除が必要です。薬剤は小麦・裸麦ともにワークアップフロアブル2,000~3,000倍又はトップジンM水和剤1,000~1,500倍を散布してください。

(2) カラスノエンドウの対策

カラスノエンドウの除草は、除草剤だけでは完全な抑草が困難です。圃場の畦畔や周辺部を良く見回り、必ず収穫前に圃場外へ取り除いてください。

2 水稲(早期栽培)

(1) 育苗管理

育苗期間中の温度管理には十分注意し、特に低温や高温等の温度変化により、ムレ苗現象や苗立枯病が発生し易くなりますので、適正な温度管理に努めてください(ラブリット等による保温)。

なお、苗立枯病にはタチガレン液剤(500倍、500ml/箱)などで防除してください。

(2) 本田準備と初期管理

ア 土づくりは、土壌改良剤の美土里を54kg/10a施用してください。

イ 基肥は、コシヒカリは化成444 20kg/10a、あきたこまちは化成444 30kg/10aを均一に施用し、野菜跡は基肥を減量してください。

ウ 病虫害防除は、サンエース箱粒剤50g/1箱(移植3日前~移植当日)を施用して田植えを行ってください。

【注】箱施用剤は施用時、除草剤を間違えて施用する場合がありますので必ずラベルを確認して使用してください。

エ 田植後に降霜の危険性がある場合や、やまじ風が吹く場合は、夜間の湛水深をさらに深くしてください。 <松本>

【野菜】

1 さといも(植付後の管理)

(1) 明きよなど排水路の確保、点検(軟腐病等の病害対策)

春先の降雨で圃場内に雨水が停滞しないように畝溝や側溝、排水路の確保・点検を行い、雨水を圃場外へ排水してください。病害対策につながる重要な作業です。

(2) 雑草対策

雑草が多く残る圃場は、湿度が高くなることで、疫病等の病害の発生が多くなる傾向がありますので、雑草防除(少発生時から)を行ってください。

(3) マルチの点検

やまじ風の強風でマルチがはく離・飛散しないように、地際部や接合部を点検して、マルチの上に土をのせてください。

2 たまねぎ

4月に入り気温の上昇とともに、べと病や白色疫病、ネギアザミウマ等が発生しやすくなります。定期防除に努めてください。

| 病虫害名 | 薬剤名 | 濃度(倍) | 使用時期(使用回数) |
|----------|--------------|-------------|---------------|
| べと病、白色疫病 | ペンコゼブ水和剤 | 400~600 | 収穫3日前まで(5回以内) |
| | ダイナモ顆粒水溶剤 | 2,000 | 収穫3日前まで(3回以内) |
| 軟腐病 | スターナ水和剤 | 1,000 | 収穫7日前まで(5回以内) |
| 灰色腐敗病 | セイビアーフロアブル20 | 1,500 | 収穫前日まで(3回以内) |
| アザミウマ類 | グレース乳剤 | 2,000~3,000 | 収穫7日前まで(2回以内) |

3 そらまめ

(1) 灌水

急激に莢が肥大する時期です。莢の充実を図るため、乾燥が続く場合は畝間灌水を実施してください。

(2) 病虫害防除

| 病虫害名 | 薬剤名 | 濃度(倍) | 使用時期(使用回数) |
|--------|------------|-------------|----------------|
| 赤色斑点病 | ロブラール水和剤 | 1,000 | 収穫前日まで(3回以内) |
| さび病 | ジマンダイセン水和剤 | 400~600 | 収穫30日前まで(3回以内) |
| アブラムシ類 | スタークル顆粒水溶剤 | 2,000 | 収穫7日前まで(2回以内) |
| | スミチオン乳剤 | 1,000~2,000 | 収穫3日前まで(3回以内) |

※株全体の萎縮やモザイク症状が見られる株は抜き取り、圃場外に持ち出してください。

<徳永>

【果樹】

1 温州みかん

着花(蕾)量と新梢の発生量を確認したら、樹の状況に合わせた対策を実施してください。

(1) 着花量が少なく、新梢が多い樹

花にかぶさる長く強い新梢の芽かきを行い、花と芽の養分競合を防ぎ、着果を促進します。また、立ち枝やかぶさり枝を基部から間引いて、花周辺に光が当たるようにしてください。

(2) 着花量が多く、新梢が少ない樹

着花数を減らし、新梢の発生を促します。特に着花過多の樹では、樹冠上部や新梢の発生が望める樹冠外周で積極的に予備枝の再設定を行い、新梢を早く発生させることで、今年の樹勢維持と次年産用の結果母枝の確保に努めてください。

2 中晩柑類

着花(果)過多の状態に陥ると、樹勢が低下します。特に隔年結果性が強い甘平では、前年産の着果量が極端に少なかった樹は、着花過多による樹勢の低下が心配されます。着花量が著しく多い樹では、団子花(直花)のせん除と併せて早めに予備枝を再設定し、残した有葉花の充実と新梢発生による樹勢維持に努めます。

3 液肥の葉面散布と灌水

新梢、新葉の緑化促進と着花過多樹の養分の消耗を補うため、窒素主体の液肥葉面散布を10~15日間隔で2~3回実施してください。

新梢と花の発生・充実には適度の土壌水分が必要です。土壌の乾燥が続く場合は、適宜、灌水を行います。

4 病虫害防除

甘平等かいよう病の発生が多かった園では、開花前(4月下旬頃~5月上旬)にも銅剤の散布を行います。葉害発生には十分に注意し、IC ボルドー66D、80倍(パラフィン系展着剤加用)を散布してください。 <三谷>

【花き・花木】

1 シキミ

4月は発芽期になります。柔らかい新芽に害虫が発生すると生育・品質が低下します。発生初期にしっかりと防除し、盆の需要期に良品生産ができるように努めましょう。モスピラン顆粒水溶剤2,000倍、アディオオン乳剤5,000倍、トップジンM水和剤1,000倍を混用散布してください。

2 アネモネ・ラナンキュラス

菌核病では、植物の地際部が白色綿毛状の菌糸で覆われ腐敗します。気温15~20°C・多湿条件で発病します。トップジンM水和剤1,500倍を予防散布してください。

暖かくなるにつれ、花が咲き始めます。球根を肥大させるため早めに摘花してください。摘花した花から菌核病、腐敗病などの病害発生株を早めに抜き取り圃場外へ出し、病害の拡大を防ぎましょう。 <佐津間>

【畜産】

春になり、日常の飼育管理に加え飼料作物の栽培準備などあわただしくなってきます。焦りや慣れ、疲労は、農業事故の原因となることが報告されています。

今一度、ご自身の農場に潜むリスクについて確認してみましょう。

1 農場内の危険箇所の点検

- ・すべりやすい場所や段差の確認、必要に応じマットや溝等の対策
- ・路肩等の危険箇所の標識の確認・設置
- ・圃場進入路の安全点検(傾斜確認、表面の状態確認、石の露出の有無)

2 機材、資材等の点検

- ・畜舎、納屋、格納庫の整理・整備
- ・機械類の自己点検・整備(場合により専門業者へ点検・修理を依頼)
- ・部品、オイルの交換、バッテリーの点検
- ・取扱説明書の確認・再読(特に緊急時のエンジン停止方法の確認)

3 基本事項の確認

- ・安全キャブ・フレームの装着、シートベルトの装着
- ・左右ブレーキペダルの再連結の確認
- ・刈払機の安全カバーの装着確認、顔面保護、足元の防護
- ・機械から降りるときはエンジンを切る

4 ゆとりある作業計画

- ・休憩時間やトラブルで作業を中断することも踏まえ、明るい時間に作業を終えられるよう、ゆとりある計画をたてましょう。
- ・資機材の清掃、点検整備を行う時間を十分に確保しましょう。 <織田>